

モザイク通信

No.134 June

2025

発行：モザイク会議 議長 森敏美

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ
104

モザイク会議ホームページ：<https://maa-jp.com/> Email: maaj@maa-jp.com

編集／作成：モザイク会議運営委員会

定時総会を 4/27 日開催しました

参加者 11 名（ズーム参加 2 名）の合計 13 名で行いました。会員の皆様には詳細を紙

面にて郵送致しました。

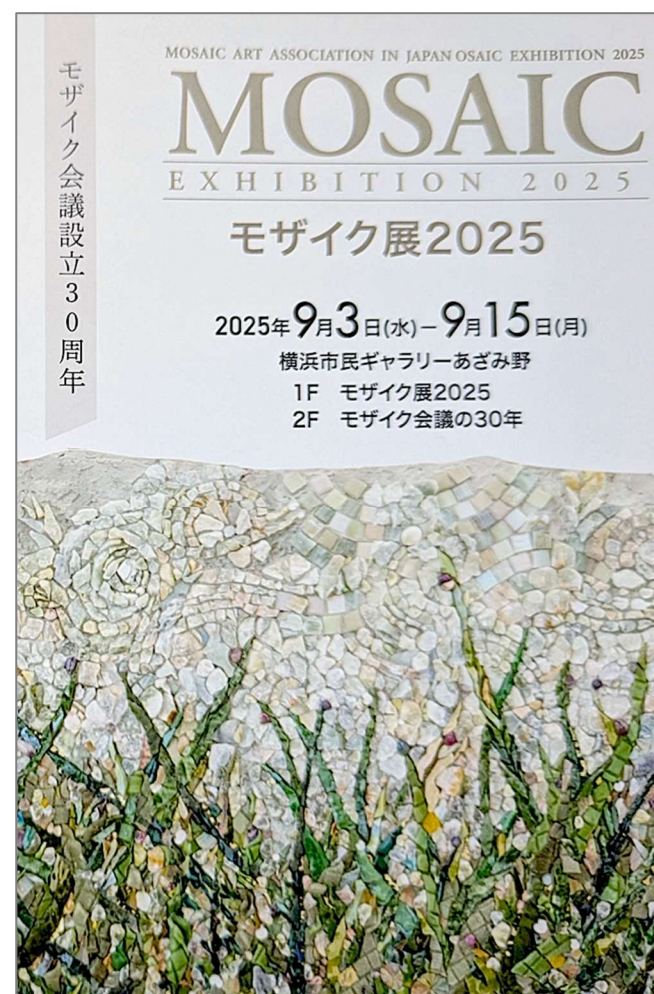
ズーム参加者を含めて意見交換に重点に置いて意

見交換が出来ました。

モザイク展2025 あざみ

野

モザイク会議設立 30 周年記念展



モザイク会議設立30周年記念展ですので、作品出品をお願い致します！

出品予定の方は申し込みメール（maaj@maa-jp.com）と出品料の振込をお願い致します。



す。詳細は出品要項をご覧ください。

2階に展示する「モザイクの散歩道」の立体作品も同時に募集しております！詳細はメールにて送信しております。出品予定

の方は上記のメールをお願い致します。

アメリカの病院とモザイク：その3

木下 綾

スタジオ Mosaics by Aya

<https://ayatrapeze.wixsite.com/mosaics>

前回までは新設病院の制作過程や作品を紹介したが、今回はすでに開業している病院への作

モザイク展2025
——モザイク会議 設立30周年——
9.3(水) - 9.15(月) 会期中休みなし
11:00~18:00 (初日は13:00より、最終日は15:00まで)

1F モザイク展2025
2F モザイク会議の30年

横浜市民ギャラリー あざみ野
〒225-0012 横浜市中区あざみ野1-17-3
アートフォーラムあざみ野内

主催 モザイク会議 www.maa-jp.com
〒185-0012 東京都国分寺市本町4-12-4-104
協賛 名古屋モザイク工業株式会社
多治見市モザイクタイルミュージアム
株式会社エクシズ

品制作の特徴に触れたい。1970 年開業のペン・ステート病院 Penn State Health ハーシー医療センターはペン・

ステートのメインの医療センターで、大規模な小児科やがんセンターなども含まれる。2023年にがんセンターの壁画、2024-2025年に心臓循環器科の壁画に携わったことで、新設病院では経験しなかった過程があり興味深かった。

ペン・ステート病院がんセンター待合室（ガラス越しに廊下より）

<コミュニティー・アート>

既存の病院の場合、すでにその病棟で働くスタッフや患者などのコミュニティーが存在しているため、彼らが意思決定および制作過程に参加することでコミュニティー・アートとしての制作が可能となる。また、一斉に多数の作品を設置する新設病院ではアート・コーディネ

ートの会社が窓口となり全アーティストに対する統一のスケジュールが設定されたが、すでに稼働している病院での設置は、各プロジ

ェクトはそれぞれの病棟とアーティストの間で設置日へ向けた調整が行われる。その際、

外部の会社が介することはなく直接ペン・ス



ペン・ステート病院心臓循環器科エントランス



テート病院内のアートを手がける部署「センターステージ」が連絡調整をする。アーティストの公募過程はなく、「センターステージ」が病棟スタッフとアーティストの選択をした上でアーティストへ仕事がオファーされるため、アーティスト側は公募よりもステップが省か

れるが、病棟のスケジュールが制作過程にも設置日程にも影響し待機期間も生じ、仕事のオフアークから設置までに8ヶ月から12ヶ月程度かかった。



<デザインへのインプットとフィードバック>

がんセンターのデザイン前には医療スタッフが日々接している、がん患者たちが経験する感情などのキーワードが送られてきた。また、心臓循環器科では、直接スタッフの人たちと会ってどんな色やテーマのアートが病棟にあったらいいかインタビューする機会もあった。そうしたインプットを参考にデザインをそれぞれ二案提出した。QRコードで集めた医療スタッフや患者などからの投票結果を考慮し、病棟のスタッフ・ミーティングで話し合った上でデザインは選択された。

<制作への参加>

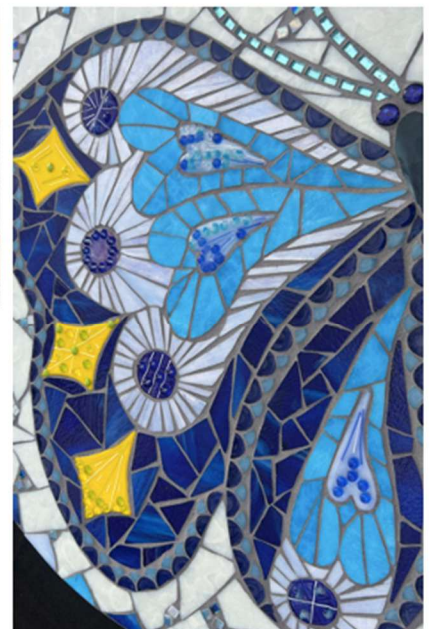
がんセンターのデザインが決定してから、背景の色やデザインへのアイデア募集として塗り絵のような用紙を配布・回収をして、主に色の選択の参考にした。いずれもデザインの中に

準備中の羽の土台ピース (上)

スタッフが作った羽を窯入れ (右)

窯出したピースを配置 (下)

は病棟のコミュニティーが制作に参加しやすい（時間や場所などの制約内で可能な）要素としてフューズト・ガラスのパーツを入れた。がんセンターの鴨の羽（黒、白、グレー）や背景に入るカラフルなピース、心臓循環器科の蝶の羽にあるハートの模様などである。忙しいスタッフが早朝のミーティングの時間や、休憩などの隙間時間に制作できるように複数回ワークショップを開いた。ベースのガラスは事前にカットして、その上にのせる細かいガラス材（ロッドをカットした丸いガラスや線状のストリンガーなど）を色ごとにグループにして用意し、好きな色グループを選んでもらい、ガラス材を各自のデザインで並べてもらった。時間を忘れて楽しむ人が多く、忙しい現場から束の間のリフレッシュになっている様子だった。その後、スタジオに持ち帰り窯で溶かし、細かいガラス材がベースのガラスに溶けて一つのタイルになったものをモザイクに取り入れた。



<設置そしてオープニング>

両プロジェクトとも、設置の際は制作に参加した人たちが興味津々に様子を見に来て声をかけてくれたり、お披露目のセレモニーの際は「みんなの作品が完成した！」という感じで、新設病院では味わうことのない

A collaborative vision: New mosaic glass art piece installed in Penn State Cancer Institute Infusion Therapy



和気あいあいとした楽しさがあった。心臓循環器科では、命を取り留めた元患者がこの病棟への感謝からアート予算を寄付したということで、病院長からスポンサー夫妻に感謝するセレモニーでもあった。

次回は病院プロジェクトを担当するなかで得た学ぶ機会などにも触れ、まとめとしたい。

がんセンターの壁画オープニングのセレモニーの記事より
<https://pennstatehealthnews.org/topics/a-collaborative-vision-new-mosaic-glass-art-piece-installed-in-penn-state-cancer-institute-infusion-therapy/>

<つづく>

モザイクに会いに行く：Part 6

森上 千穂

モザイク愛好家

国内のモザイク壁画について書かれた出版物は少なく、実際の壁画制作に関わった方々が多く所属するモザイク会議の出版物はとても貴重な資料です。先日こんなことがありました。知人から都内のあるモザイクの写真が送られてきたとき、「あ！このモザイク、たしか載っていたはず」と気づきました。しかし、どこか様子が違います。半分以上が無いのです。載っていたはず、というのは私が持っているモザイク会議の会報『Mosaic』の第2号(1997年発行)のことで、「私の好きなこの1点」としてこのモザイクが紹介されていました。

村野藤吾氏が内装と庭園の設計を手掛けた1979年竣工のそのホテルは、現在「シェラトン都ホテル東京」と竣工時から名前も変わっています。大きな改修があったという事なのでその際にラウンジのモザイクも失われたのでしょうか。存在を知ってしまふと自分でも実際に見てみたくなり、今年1月の上京の際に行きました。ホテルの方をお願いして写真を撮らせてもらい、記事にあったように私もコーヒーを飲みなが





ら作品を眺
めました。
モザイク制
作はブルー
ノ・サエッ
ティ氏。村
野建築に
数々の作品

を制作した作野旦平氏の師でもあります。残念ながら作品全体の様子は写真から想像するのみですが『Mosaic』に掲載された写真がとても貴重なものであると実感できました。

去る4月末の日曜日、モザイク会議の総会に今年もZOOMで参加しました。画面で

シェラトン都ホテル東京「ロビーラウンジ バンブー」のモザイク (2025年1月撮影)

資料を共有
して下さっ

たり、会場のネット環境のせいで内容が聞き取りにくい時は補足して下さったりなど
のご配慮もあって、会場の様子がよくわかりました。総会の後半では、今秋のモザイ
ク展についての話もありました。なんといっても、今年はモザイク会議30周年の記

念すべき年です。展示作品はもちろんのこと、モザイク資料オタクを自負する私には過去の会報などが並ぶのも楽しみでしかたありません。中でも会報『Mosaic』の第1号はこれまでに見たことが無く、9月にやっと読めると思うとわくわくします。

「モザイク会議」という名前はどんなふうに決まったのか、第1回展を開催するにいたるエピソードなど、モザイク会議の成り立ちやこれまでの活動がわかる機会となりそうです。2015年の20周年のときは1階の作品を見るのとお喋りに夢中で、2階の展示物を見逃したのが心残りでした。今回こそは時間に余裕をもって出かけるつもりです。

私のお宝本『Mosaic』のバックナンバー

展覧会情報

会員の個展、グループ展のお知らせをモザイク通信に

掲載致しますので、早めに事務局宛 maaj@maa-jp.com



にメールを下さい。また速報性・ビジュアル性が高いインスタグラムでの告知は飯野

さんにメール natsumiino@gmail.com かモザイク会議のインスタ [mosaic_kaigi](https://www.instagram.com/mosaic_kaigi)

の DM に写真と情報を送信してください。

・会員の土屋忠宜さんが国際瀬戸内芸術祭に参加されています。

す。次号に記事を掲載予定です。



《屋島アートどうぶつ園 ― 海と森のむこうがわ》

海と木々に囲まれた「やしまーる」を舞台に、9名の作家による主に動物をモチーフとした立体作品を展開。コンセプトは、「いきいき、のびのびと暮らす島の動物たち。瀬戸内海の豊かな生態系を起点に、アーティストが独自の目線で表現する」。海洋生物と陸上生物との対比、作品の素材にも注目しながら鑑賞できる企画展示を行う。

(以上ホームページより)

<https://setouchi-artfest.jp/artworks/detail/fd142b67-1238-455f-b5fd-7665d0d5c16b>

・会員の原恒夫さん主催のタイルモザイク教室の展覧会 EAM 展が開催されます。

41th EAM展

2025年6月12日(木) ~ 16日(月)
11~17時 (最終日 11~15時)

戸塚区民文化センター さくらプラザ3Fギャラリー

事務局 ☎244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 565-4
原 090-6034-7103

戸塚区民文化センター さくらプラザ3Fギャラリー

JR&市営地下鉄 戸塚駅西口 連絡通路から直結
戸塚区総合庁舎
戸塚区役所の上



会費納入のお願い

2025 年度の会費(1 万 2 千円)の納入をお願いいたします。入金は 2026 年 2 月末日迄
となります。

振り込み先 ゆうちょ銀行口座記号：10000

番号：97185511 モザイクカイギ

他銀行からの振り込みの場合は以下になります。

ゆうちょ銀行 店名：008（ゼロゼロハチ） 店番：008

普通預金口座：9718